

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Season of birth and atopic dermatitis in early infancy: results from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

出生した季節と乳児期のアトピー性皮膚炎: エコチル調査の結果より

ユニットセンター(UC)等名: 富山ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: BMC Pediatrics

年: 2023 DOI: 10.1186/s12887-023-03878-6

筆頭著者名: 土田 暁子

所属 UC 名: 富山ユニットセンター

目的:

先行研究から、出生した季節とアトピー性皮膚炎の発症が関連し、秋生まれのリスクが高いことが知られていた。本研究では、この関連が、生後どの程度早い時期から観察されるかを検討した。

方法:

81,615 人の乳児を対象に、出生月または季節と生後 1 か月、6 か月、1 年に観察された湿疹および生後 1 年までの医師診断によるアトピー性皮膚炎の 4 種類の転帰との関連を多変量ロジスティック回帰分析により検討した。また、母親のアレルギー歴と乳児の性別で層別した分析も行った。

結果:

生後 1 か月時点の湿疹は夏生まれに多かったが、生後 6 か月では秋生まれに多かった。また、逆の季節の観察となる生後 1 年においても秋生まれで多いことがわかった。また秋生まれのアトピー性皮膚炎の発症リスクは、母親にアレルギー疾患の既往がある男児で顕著であった。

考察(研究の限界を含める):

直接的な要因は確認できないが、秋生まれの子は乳児期の初期に冬を越すため、乾燥や寒さといった皮膚バリア機能に悪影響がある条件を過ごしていることが、湿疹やアトピー性皮膚炎が多い原因と考えられる。また、日照時間も短い時期であるため、乳児の血中のビタミン D 生成が低いことも要因の可能性もある。本研究の湿疹、アトピー性皮膚炎の測定は保護者が回答する調査票から情報収集した点、生後 1 か月時と 6 か月時の質問文が一致していない点、アトピー性皮膚炎発症と関連する遺伝子多型を考慮できなかった点などの限界がある。

結論:

生後 6 か月と生後 1 年では、春生まれよりも秋生まれの乳児の方が、湿疹とアトピー性皮膚炎が多いことがわかった。とくに母親がアレルギー性疾患の既往のある秋生まれの男児では、乳児期の皮膚のケアに十分な注意を払う必要があることが示唆された。